

ISO/TC225 WG3 第2回国際会議 参加報告

ISO20252 認証協議会 委員長 一ノ瀬 裕幸
同委員 浅野 怜祐

1. 国際会議の概要

”Web analyses”の ISO 化に向けた、TC225/WG3 の第2回国際会議がベルリンで開催された。

日時： 2015年4月16日(木)～17日(金)
会議名： ISO/TC225 WG3 第2回国際会議
参加者： WG3 メンバー (6カ国+1 オブザーバー機関、計11名参加)
Convenor: Mr. Erich Wiegand (ドイツ ADM 代表)
Secretary: Mrs. Annette Altenpohl (オーストリア ASI 事務局)
参加国： 日本 (一ノ瀬、浅野：2)、イギリス(1)、カナダ(1)、オランダ(2)、
ドイツ(WG3 議長国：3)、オーストリア(1)、ESOMAR (オブザーバー：1)
場所： ベルリン Austrian Standards Institute 会議室
(※ 前回参加のスペインは文書発言のみ。USA は今回も不参加、コメントもなし)。

2. 討議／決定事項

- ① 前回の会議を受けて作成された 2 次ドラフトへの各国のコメントに沿って討議し、WG3 としての第 3 次ドラフトを再整理することとした。なお、3 次ドラフトへの意見の取りまとめを経たものを、CD (Committee Draft) として登録する方針とすることが確認された。
- ② 3 次ドラフト作成にあたっては、次の 2 つの小委員会を組織することとした。
 - i) 議長の Erich 氏と事務局、およびオランダ代表の Ed 氏が、今回の議論の結果を受けた文章を ISO の規制に沿って見直しをかける、
 - ii) ESOMAR 事務局長の Finn 氏とカナダの代表 (Annie 氏)、およびイギリス市場調査協会事務局長の Debrah 氏とで、まだ不足していると考えられる内容面の追加提案 (Cookie や位置情報、モバイル対応等) を起草する。この過程で、Web Analyses に関する実務家の意見をより広く取り入れるように試みる。このグループは、Annie 氏が主導する。
- ③ 2 つの小委員会の作業は 5 月末までに完了させ、事務局が取りまとめて 6 月上旬を目途に各国に 3 次ドラフトとして回覧される予定である。

また、この 3 次ドラフトに対するコメントは 9 月 1 日が締め切りとされ、次回の WD3 で議論されることになる。
- ④ この規格案そのものは、あくまでも独立した新 ISO 規格として扱うことになった。規格案の内容面では、日本から提案した追加項目についてはおおむね 3 次ドラフトに盛り込まれることとなった (英文の表現については小委員会 i に委任)。
- ⑤ 独立規格とする方針、既存規格 (ISO20252/26362) との関係性については、今回も日本、イギリス、ESOMAR と、スペインからの文書発言で異議が提起された。しかし、議長と事務局からは従来の規格にない要求事項が含まれてきていること、先行する ISO20252 との重

複があることは当然であり、他の ISO 規格との比較でも問題にはならないこと、現実に Web Analyses の業務が拡大し、市場に求められていることから、まだベストプラクティスが確立されていないとしても、新規格として制定し、改訂を重ねることによりよいものにしていくべきとの主張がなされた。WG3 としてはこれを受け入れ、独立規格としての成立を目指すこととなった。

- ⑥ また、ESOMAR からの提案を受け、この分野の実務家を募ってより適切な要求事項を盛り込むことについても合意されたが、ESOMAR はオブザーバーの立場であることから、実務家は各国の代表機関を通じて選任・派遣されなければならないことが念押しされた。
- この件については、カナダから積極的な役割を果たしたい旨の意思表示がなされた。

3. 今後の作業スケジュール

- ① 2015 年 10 月 7 日～8 日に TC225 としての会議が招集されることになり、それに合わせる形で 6 日にトロント（カナダ）にて第 3 回 WG3 を開催する。
- ② 2016 年 5 月をメドに、DIS（国際回覧に付すドラフト）作成を目指す。

4. 会議の状況と関連情報

(1) 独立規格としての取扱いについて

- ・ 前回までの議論ではあいまいさを残していたが、今回は議長国が明確な意思を持って独立規格化を主張し、なかば押し切る形になった。

この WG3 会合の直前に、病氣療養中だった TC225 の Bill 議長（イギリス）が退任し、カナダの Don 氏（WG3 メンバー、元カナダ市場調査協会会長）に交代することが発表されたが、そうした内部事情の変化も影響しているのではないかと推測された。

- ・ なお、このまま独立規格として成立することを想定し、日本での認証の枠組みについて検討していく必要がある。ISO20252 認証協議会も、「ISO/TC225 認証協議会」に衣替えし、この規格および ISO26362 の認証を所管する形にすべきかと思われるが、詳細は今後議論していくこととしたい。

(2) 当該業務の担い手に関する表現について

- ・ 今回議論された 2 次ドラフトに関し、スペインより「対応主体を”Service provider（サービス提供機関）”から”Research service provider（市場調査機関）”に戻すべき」との意見が出されていたが、討議参加国の総意で却下するところとなった。

この規格が対象とする業務は市場調査の一環である”Research project”であり、リサーチ目的での Web analyses になるが、現状では市場調査機関だけがそれを担っているわけではなく、異業種からの参入やクライアント自らが手がけている状況があり、そうしたプレイヤーを含めてプロセス管理の質を高めることが求められているためである。

(3) ISO26362 の改訂見通しに関する情報はなし

- ・ 先般、「ISO26362 も改訂が必要」との国際投票結果が示され、対応する WG2 を再発足させる方針が流れたが、（WG3 には権限がないこともあり）新たな情報はなかった。10 月に

WG3との同時開催が提起されたTC225として、何らかの動きが出るものと思われる。

(4) USAの動向

- ・ 米国はこの分野の先進国であり、Pメンバーとして委員も登録していることから、今回のWG3には代表を送り込んでくるものと予想していたが、結局コメントも送付されず、事務局にも「音沙汰なし」とのことであった。
- ・ マーケットが大きく、知見も豊富と思われる米国の参加がない場合、新規格の有効性の実を取れるかどうか懸念されるところであるが、ここは欧州と米国との微妙な主導権争いがからんでいるものとみられる。

以 上